

症例1

60歳代 男性

昨年末より左耳下部の腫瘤を自覚し、以降無痛性に増大したため、
かかりつけ歯科より紹介。

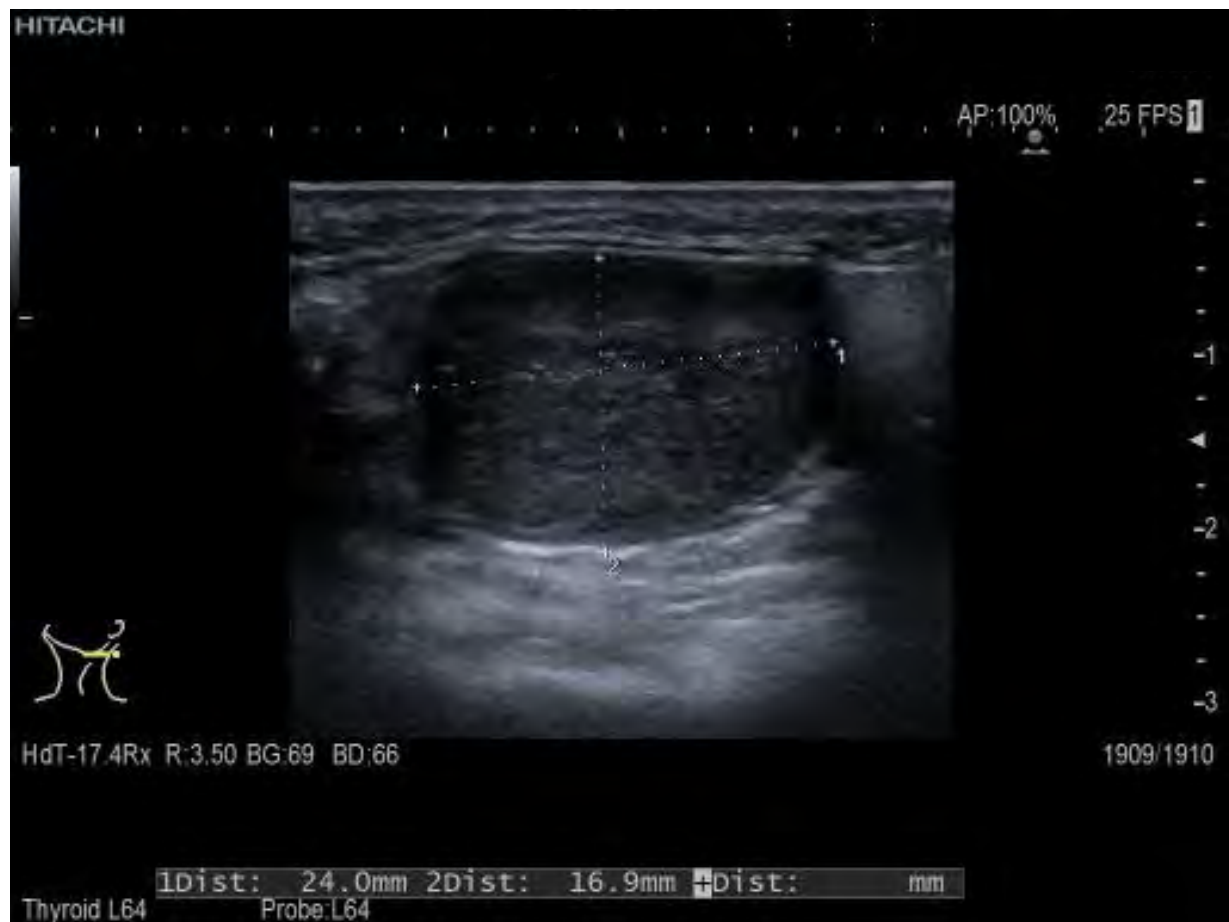
【生活歴】

飲酒：日本酒2.5 合/day 喫煙：15本/day(33-38age)

【家族歴】

母：子宮癌、姉1：大腸癌、姉2：SAH、兄：大腸癌

20XX/9/4 超音波検査



26*24*16mm

20XX/9/4 同日 左耳下腺穿刺吸引細胞診

【経過・所見】

昨年末より左耳下部の腫瘍が増大。弾性やや硬、可動性良好な腫瘍あり細胞診実施

【目的】

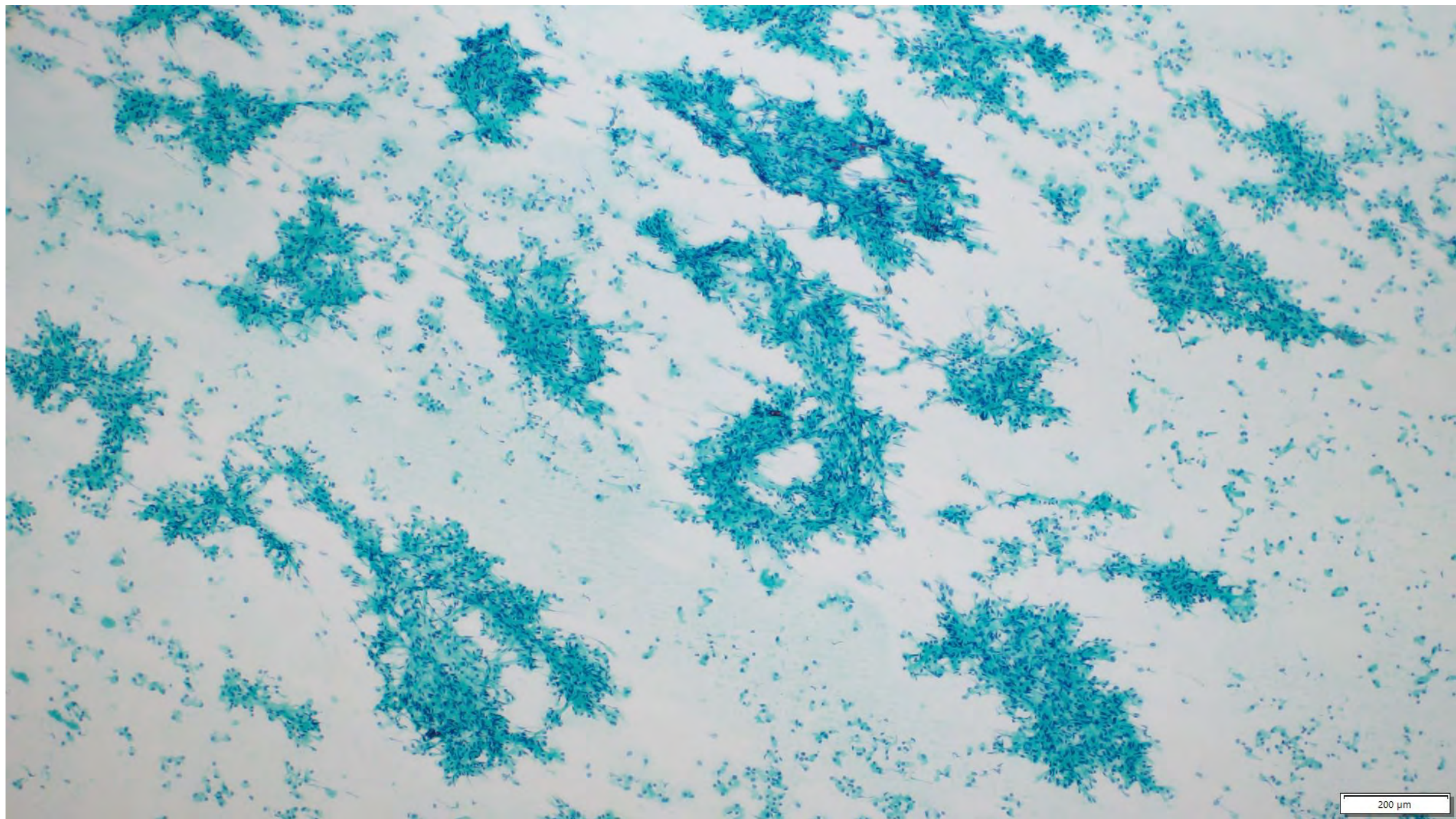
良悪の診断、組織型の診断

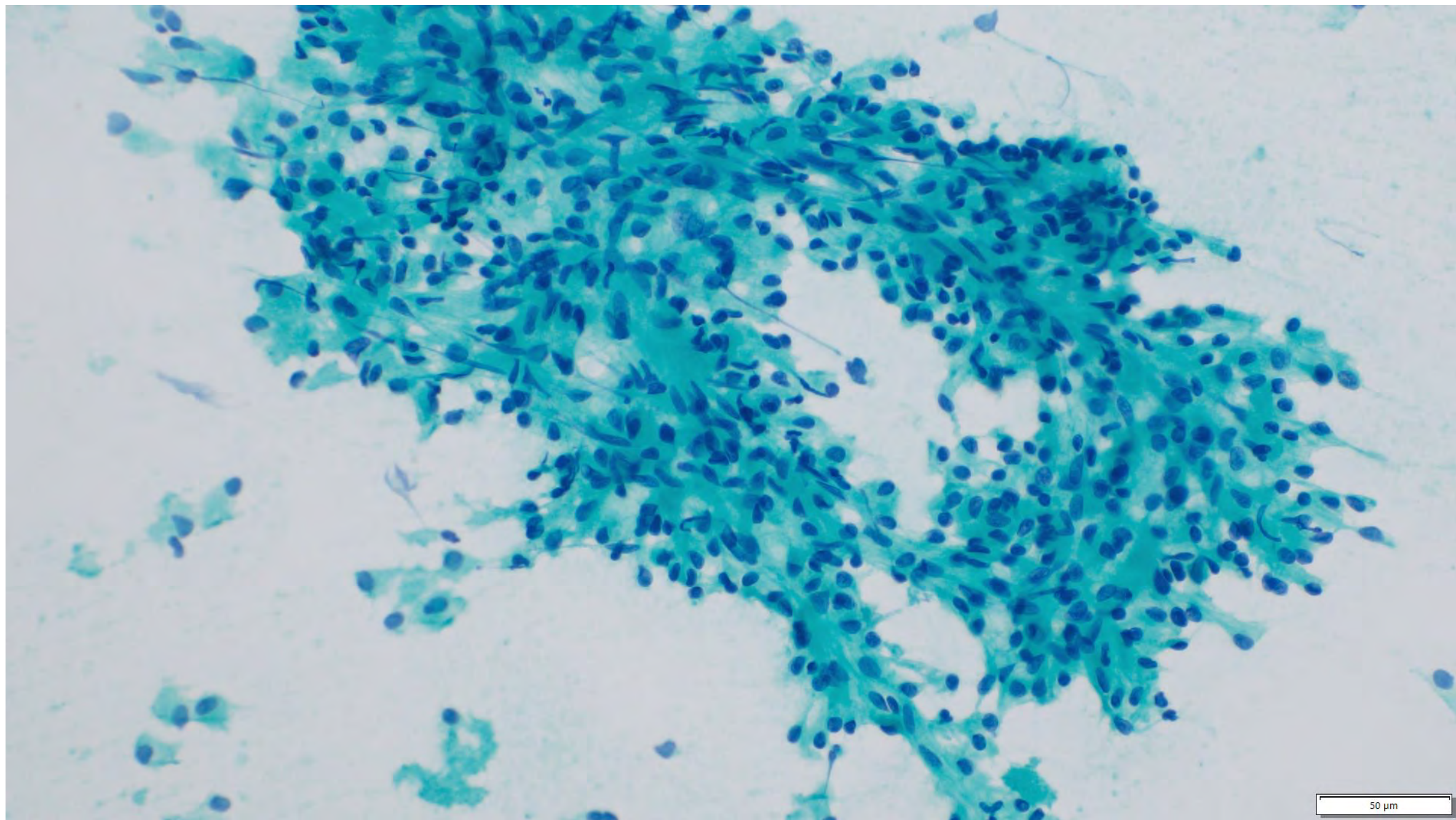
【臨床診断】

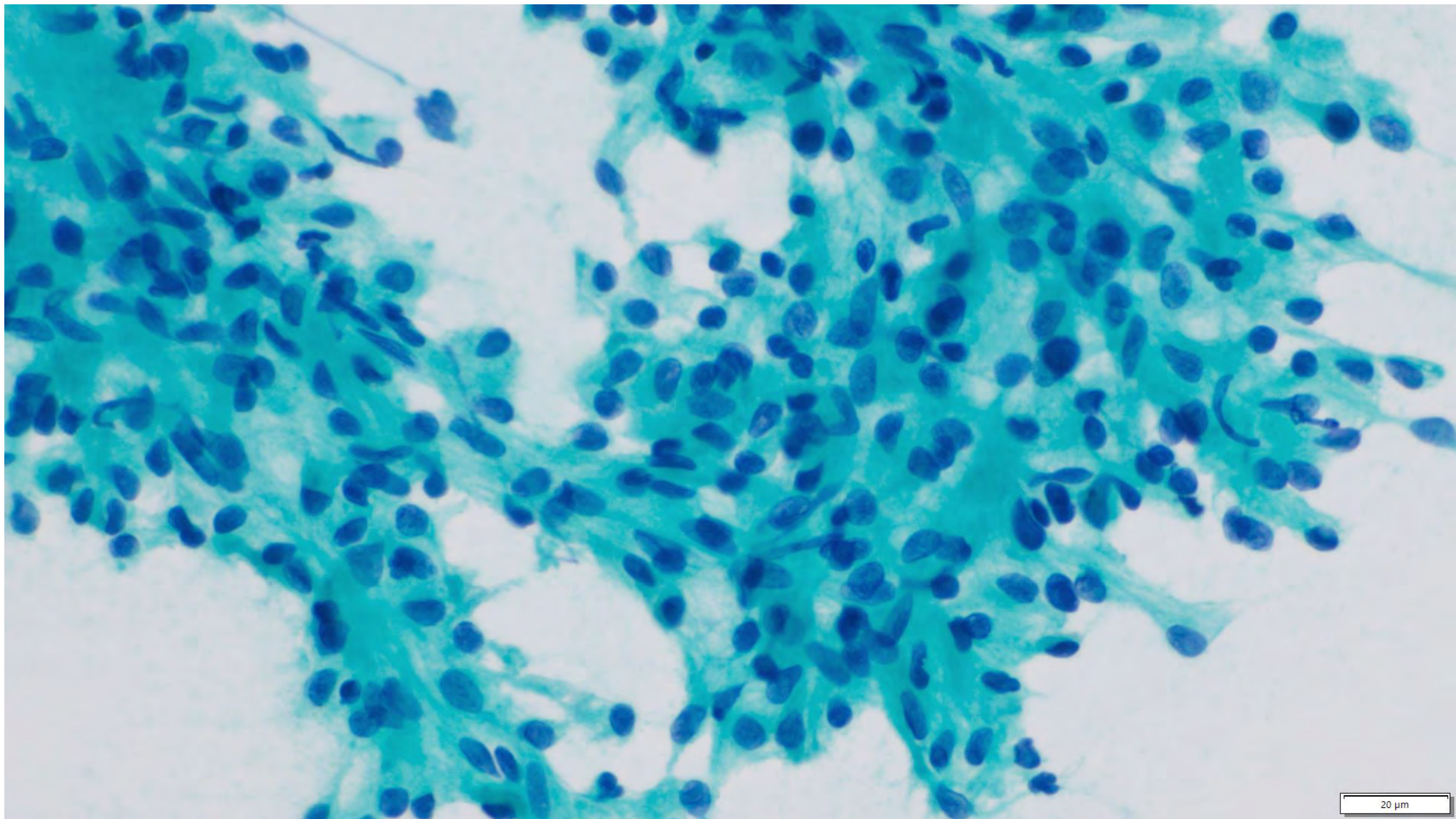
左耳下腺腫瘍

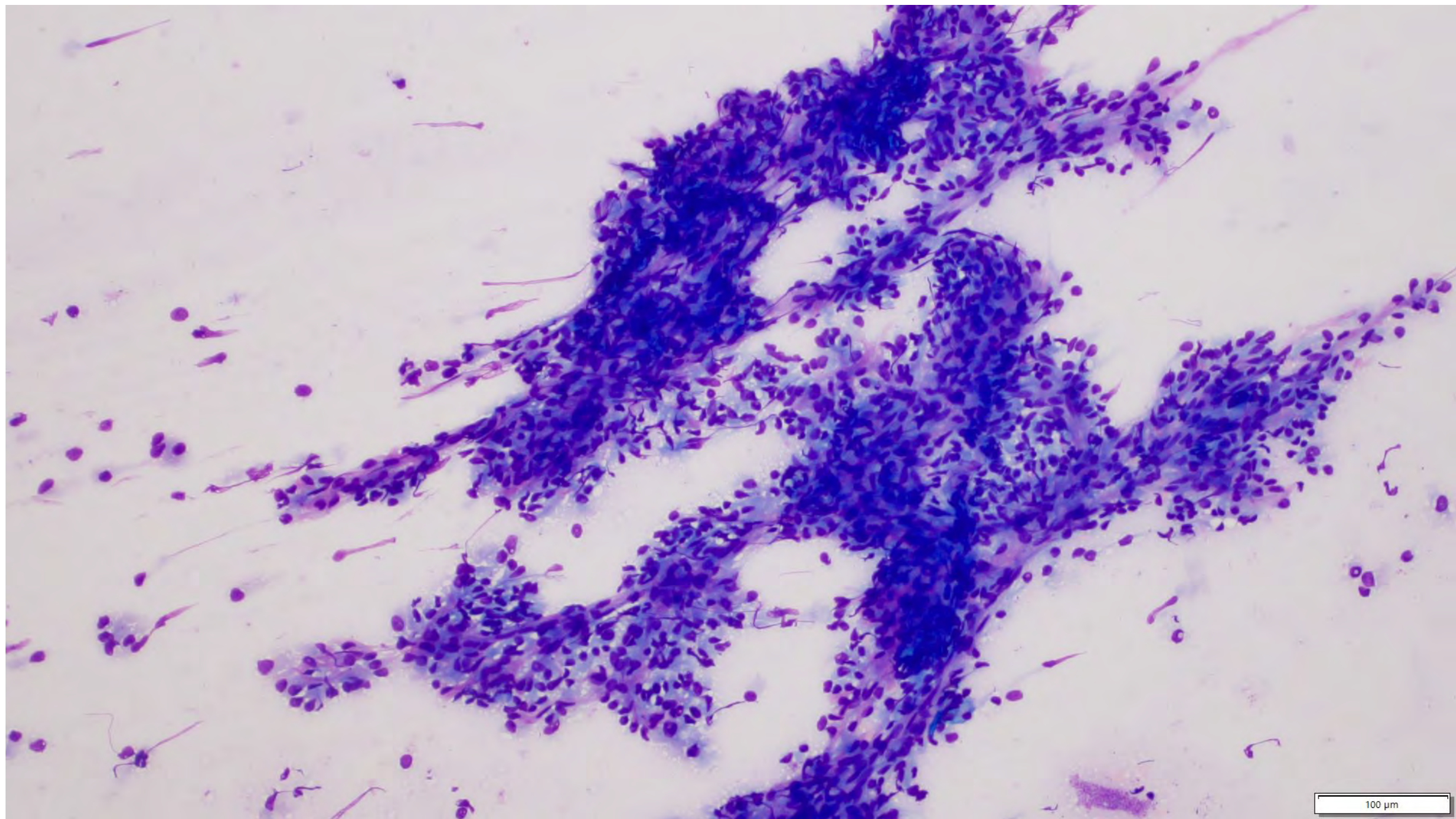
【標本作製法】

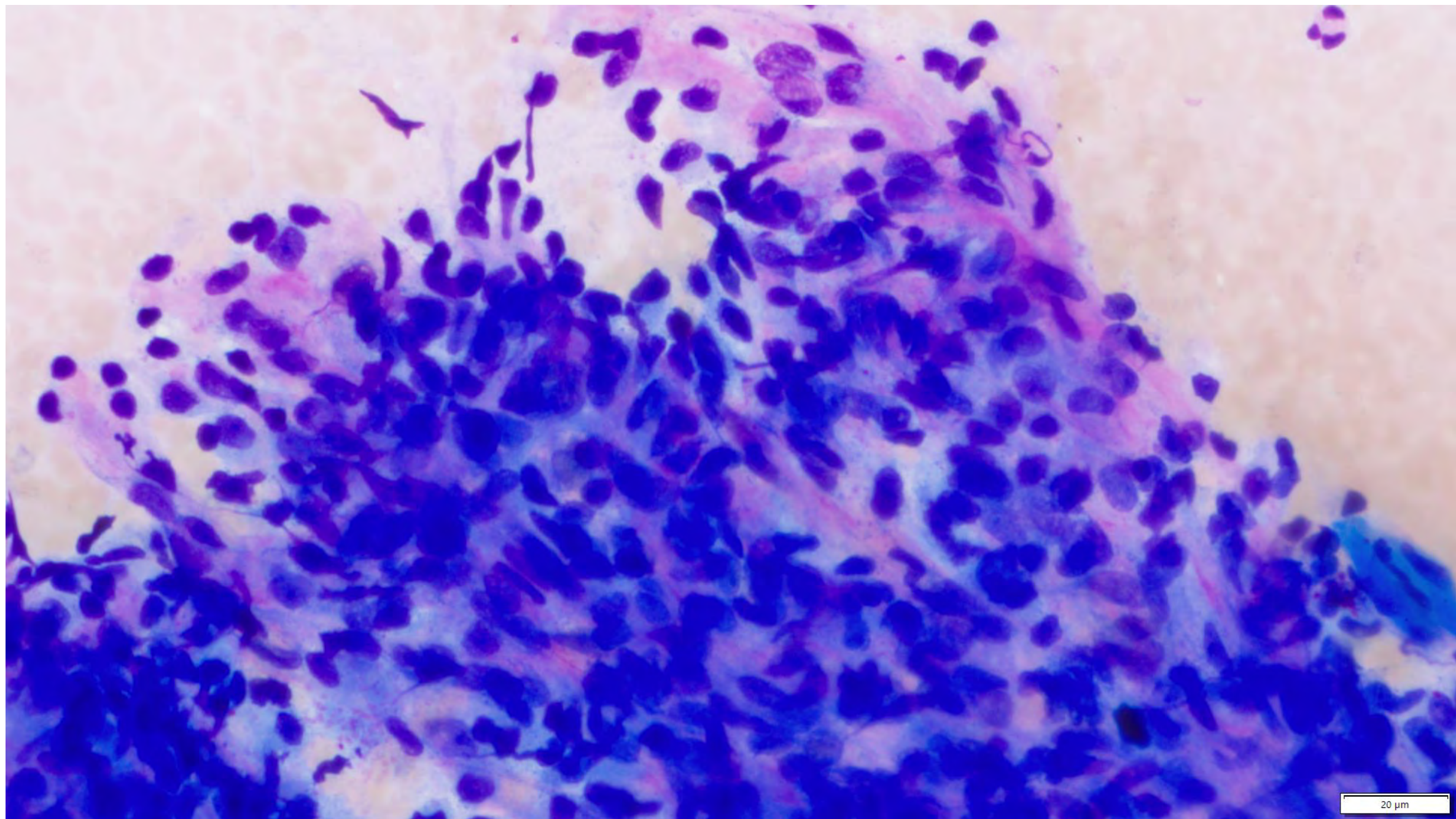
直接塗沫

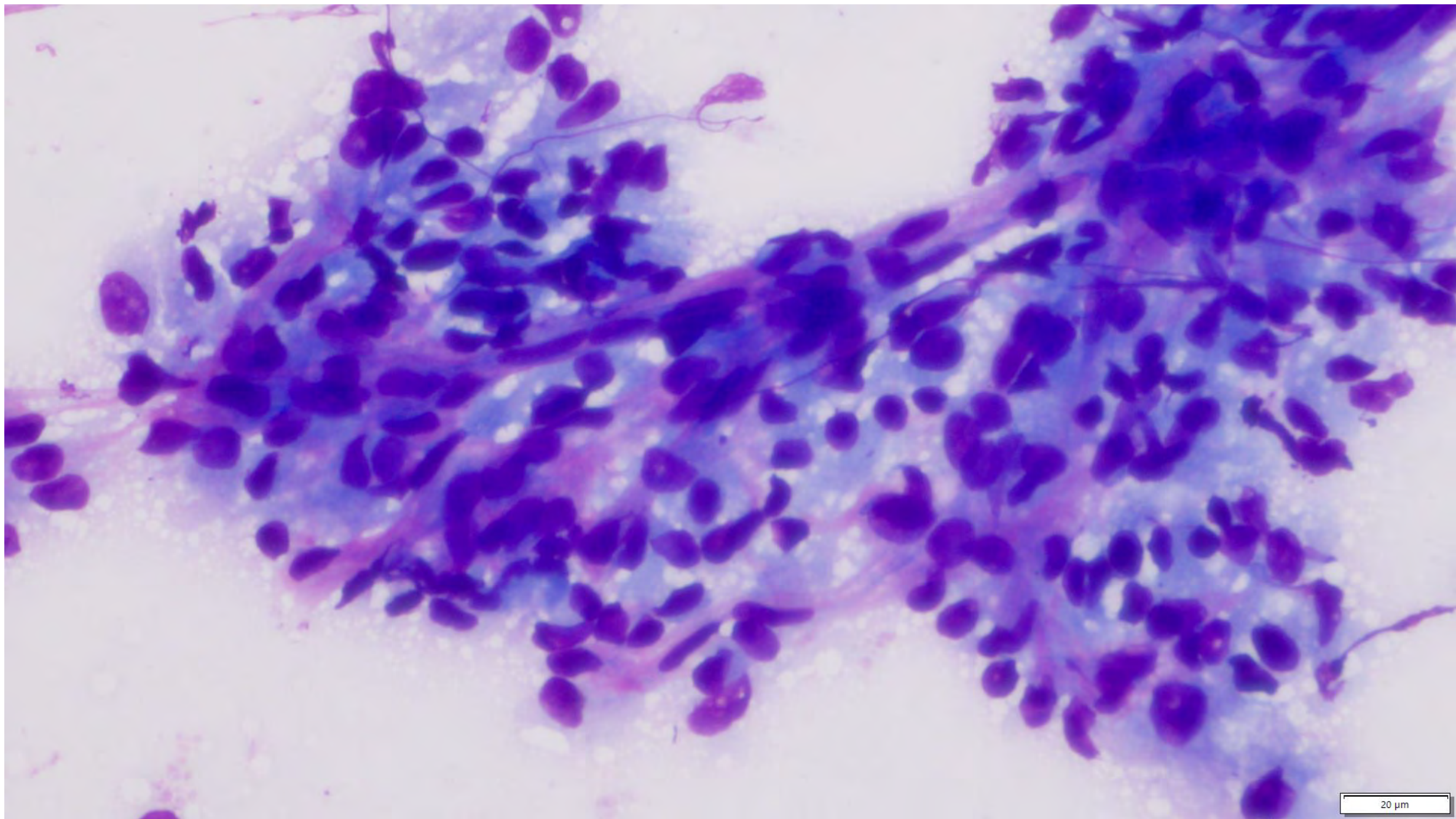








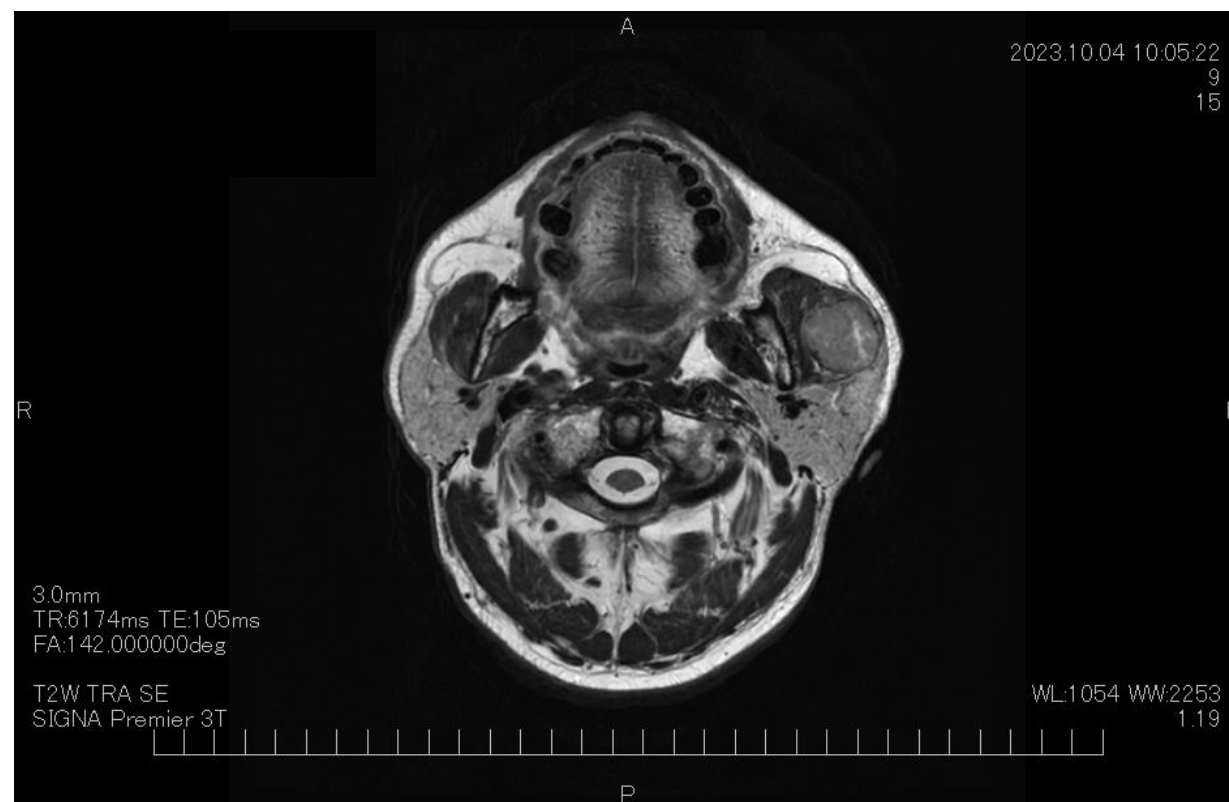




唾液腺細胞診ミラノシステム分類

SUMP～悪性の疑いが妥当と思われる

20XX/10/4 MR



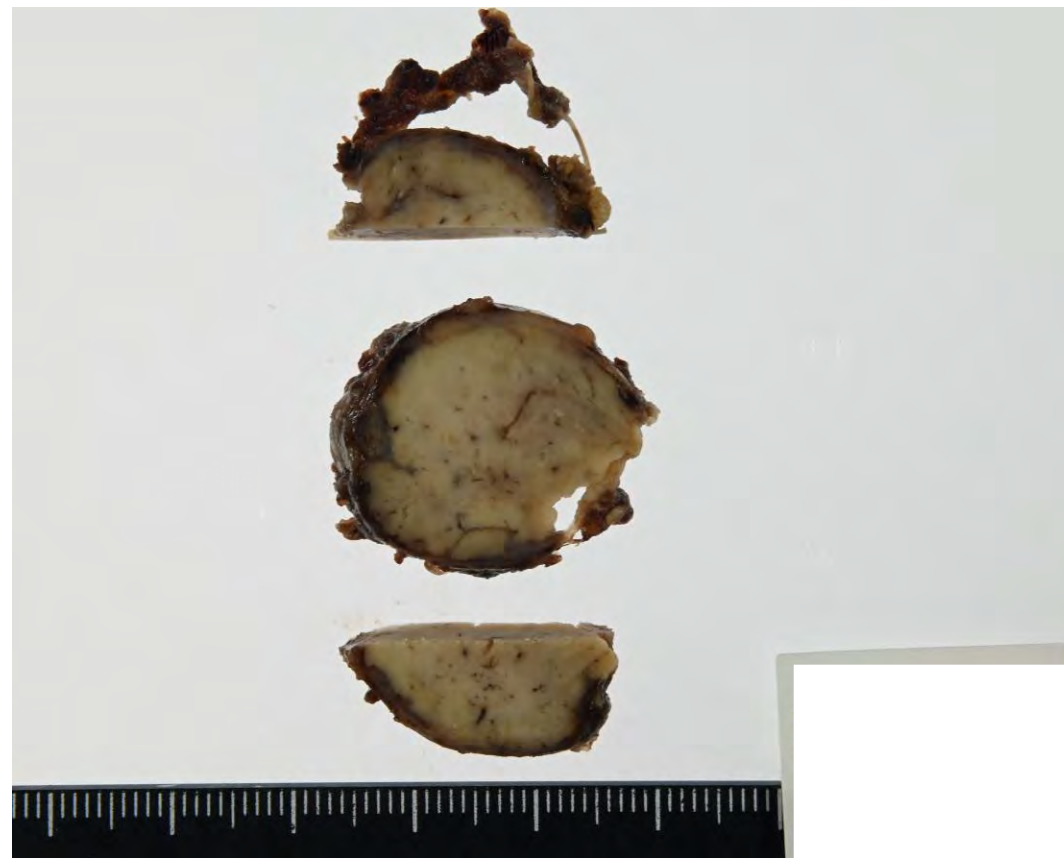
<読影レポート>

左耳下腺浅葉に約26mm大の腫瘤を認め、被膜様の構造に覆われています。他にはっきりとした耳下腺腫瘍はありません。多形腺腫をまずは疑いますが、細胞診などと対比下さい。

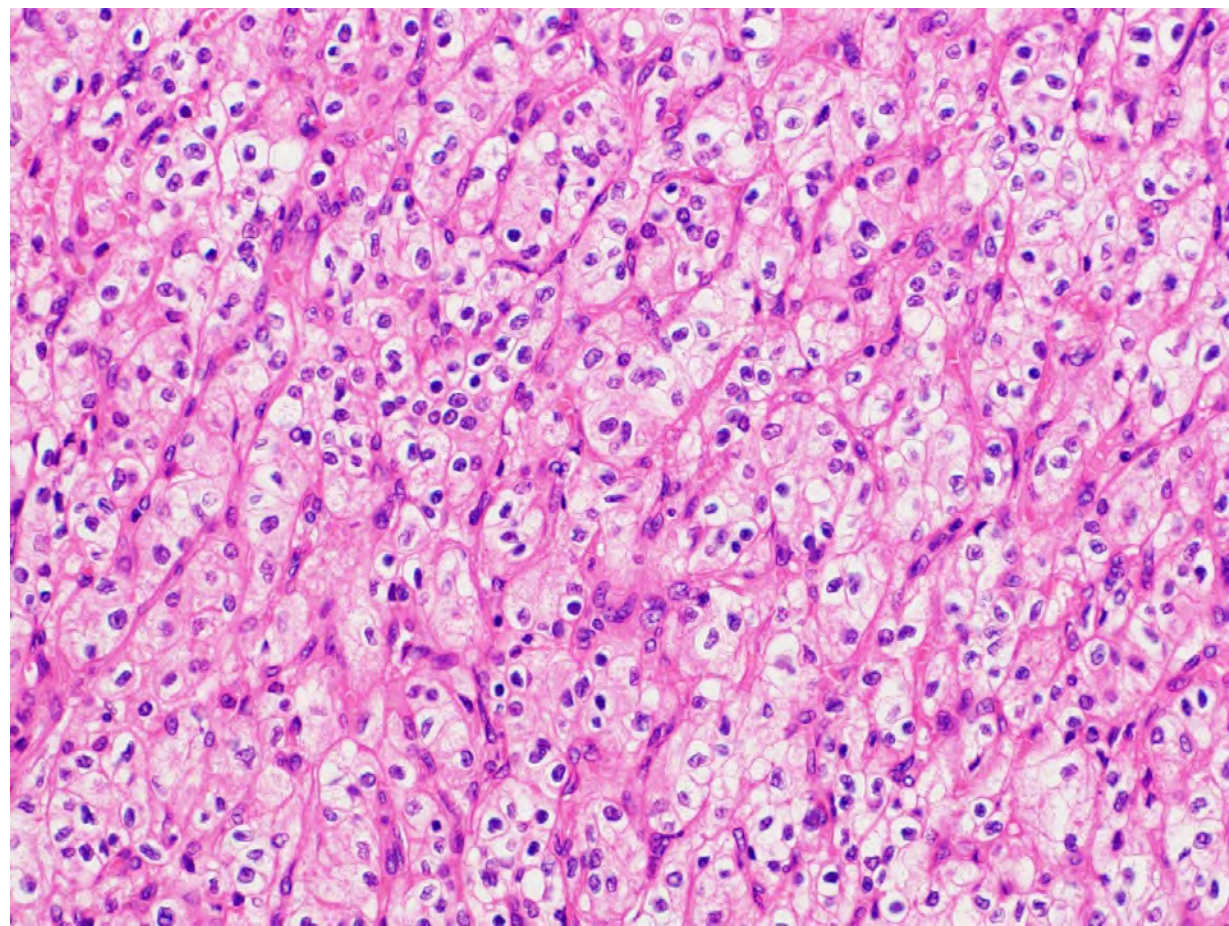
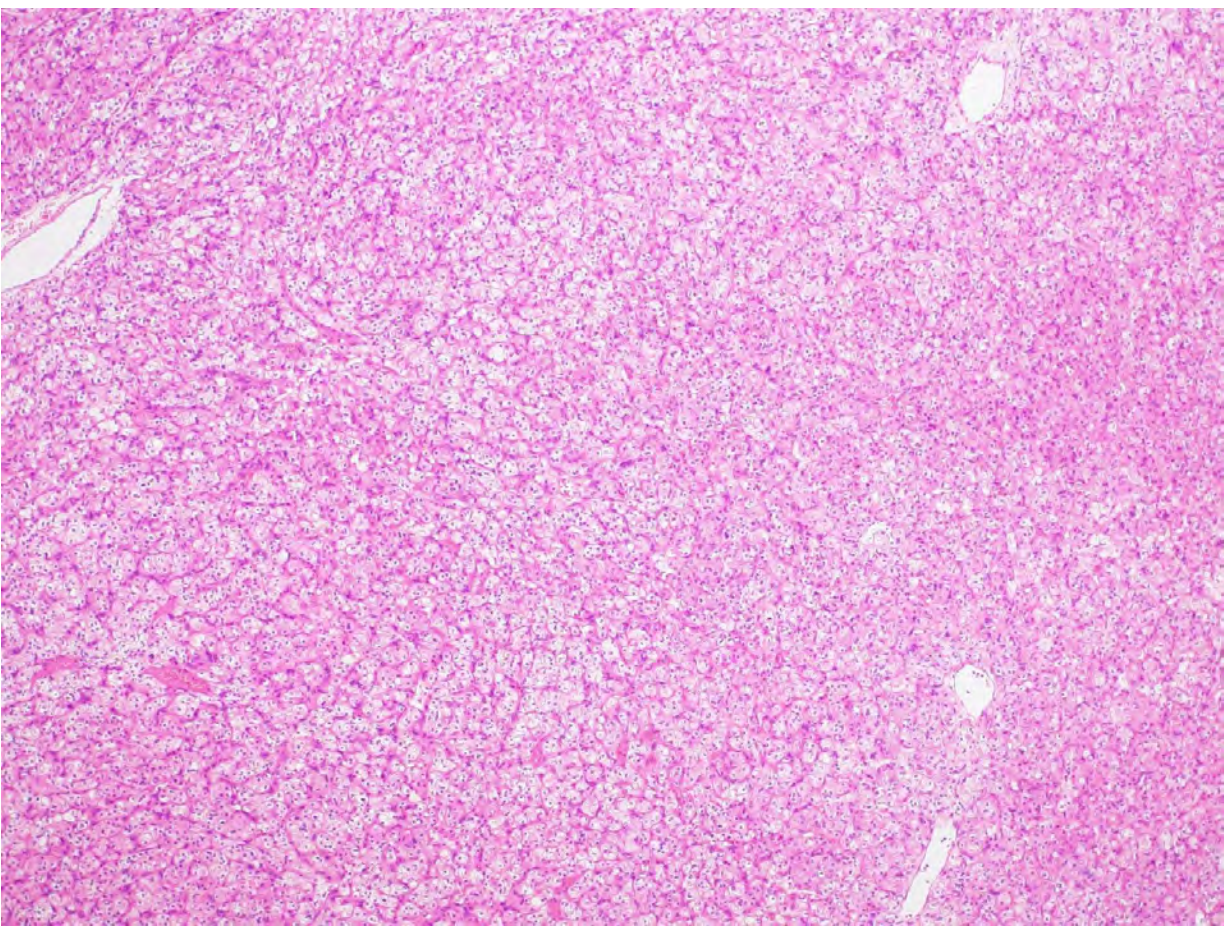
頸部にはリンパ節が散見されますが、有意なリンパ節腫大はありません。

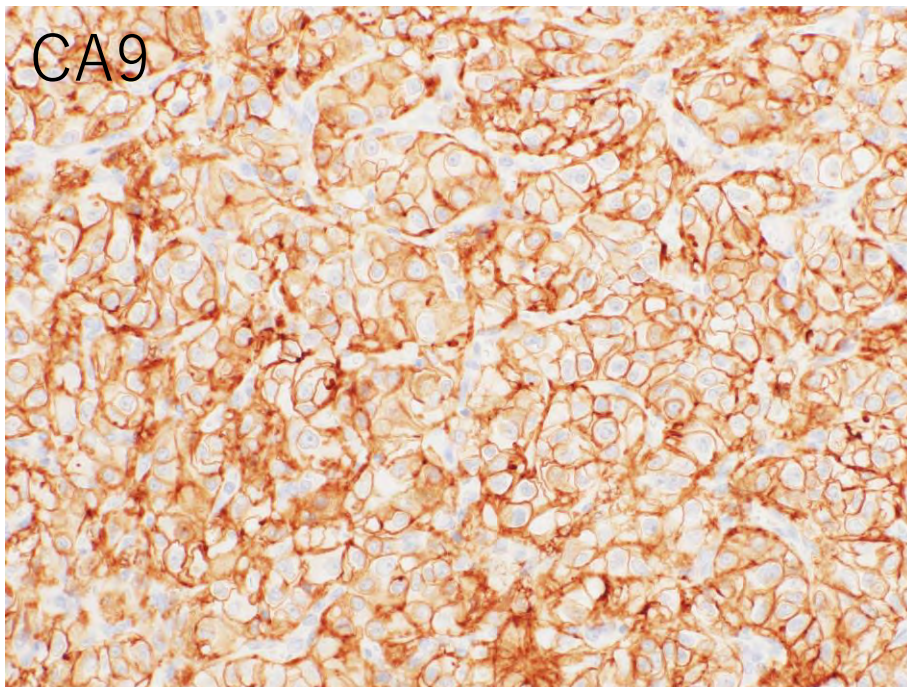
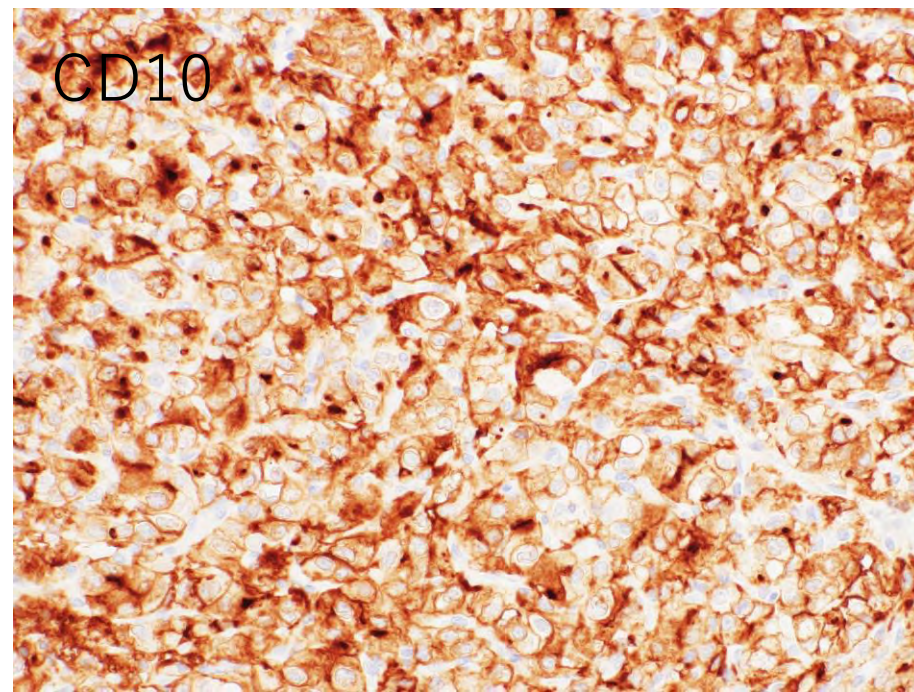
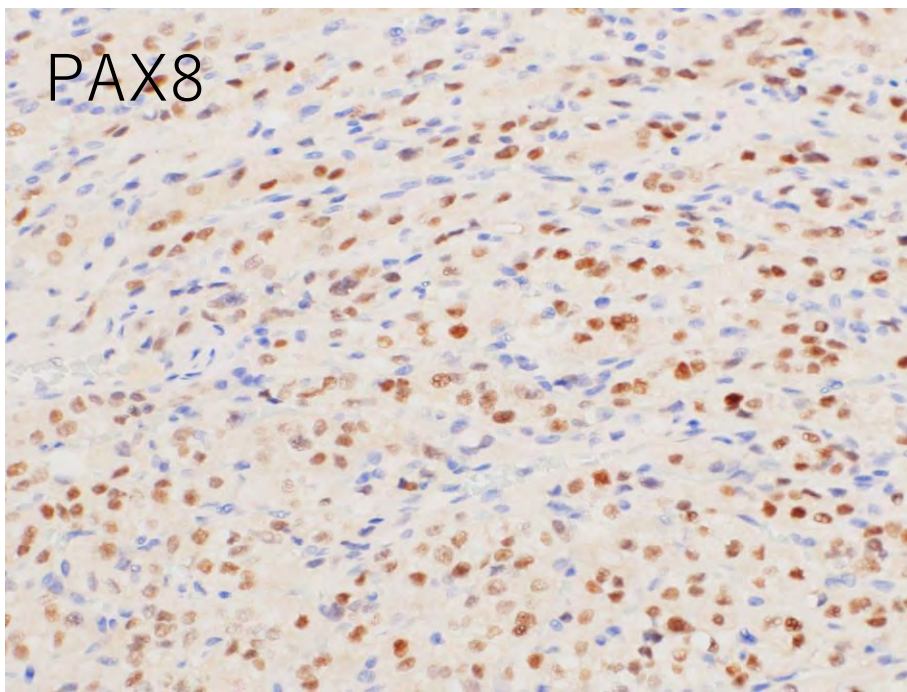
20XX/10/27 左耳下腺腫瘍摘出術

腫瘍は耳下腺前方、頬骨枝、頬筋枝直下に位置しており、剥離して顔面神経温存。
内側では咬筋に接し一部癒着を認め、剥離の際、被膜損傷あり。

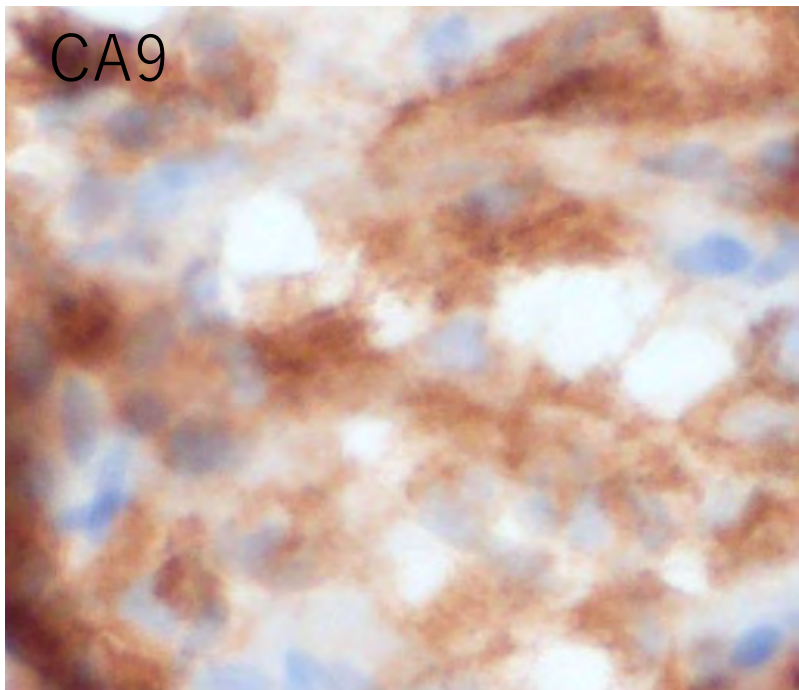
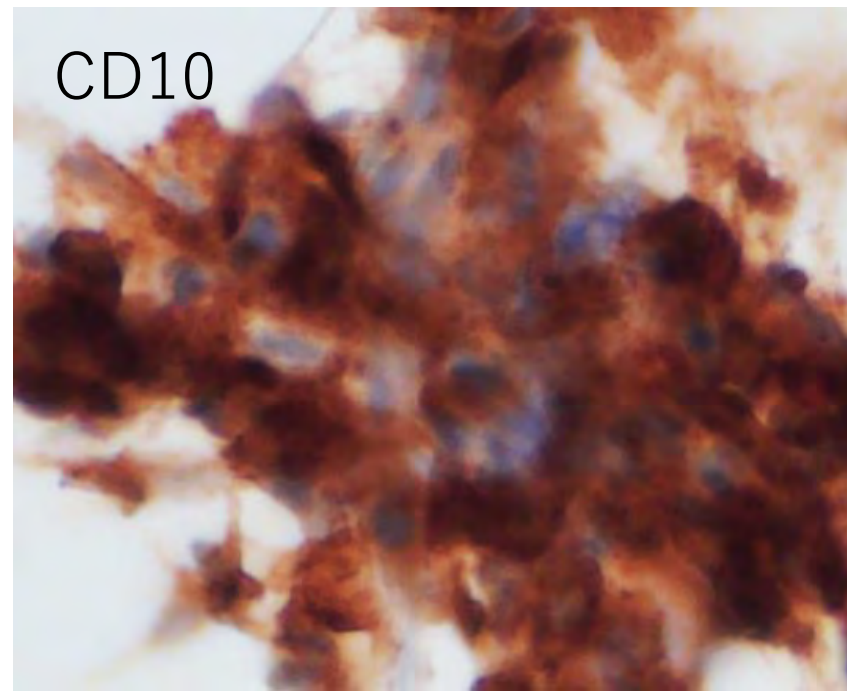
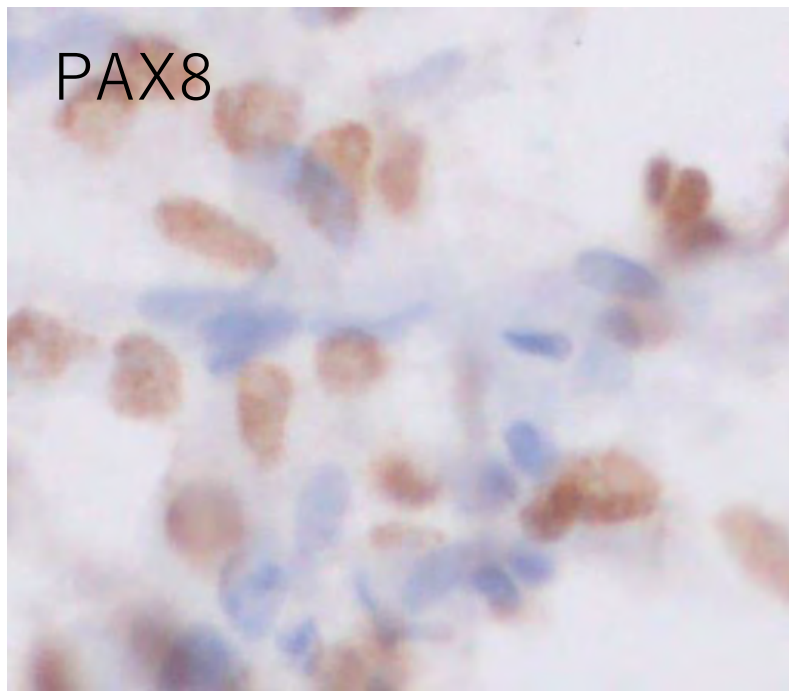


左耳下腺腫瘍_病理組織結果





腎癌（Clear cell renal cell carcinoma）
の転移を第一に考える

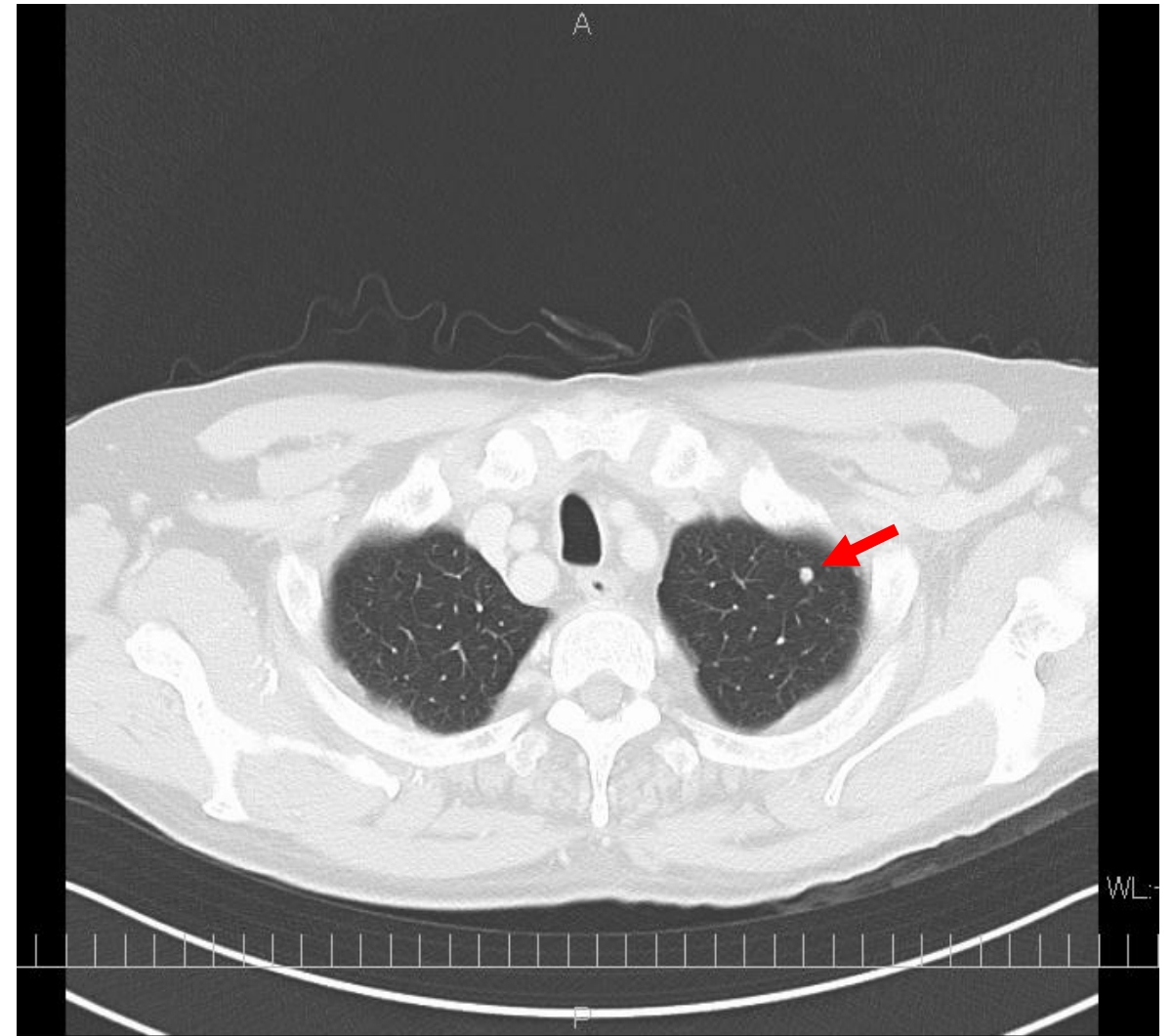


細胞診 再検討

20XX/12/11 胸腹部CT



左腎上極に最大10cm超えの不整な腫瘤を認める



胸膜面まで柵状陰影がみられる点のみ非典型ですが、類円形の形態からは肺転移の可能性がある所見です

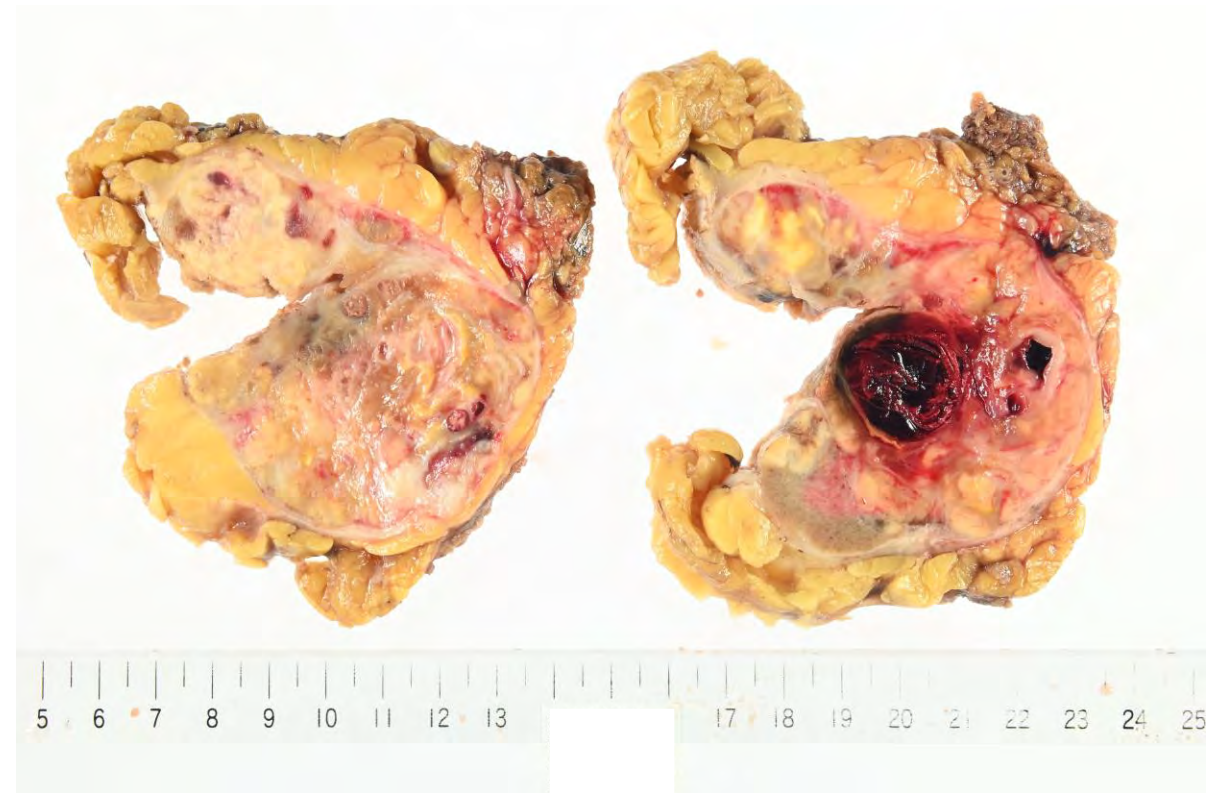
20XX/12/15 骨シンチ



骨転移を疑う異常集積はない

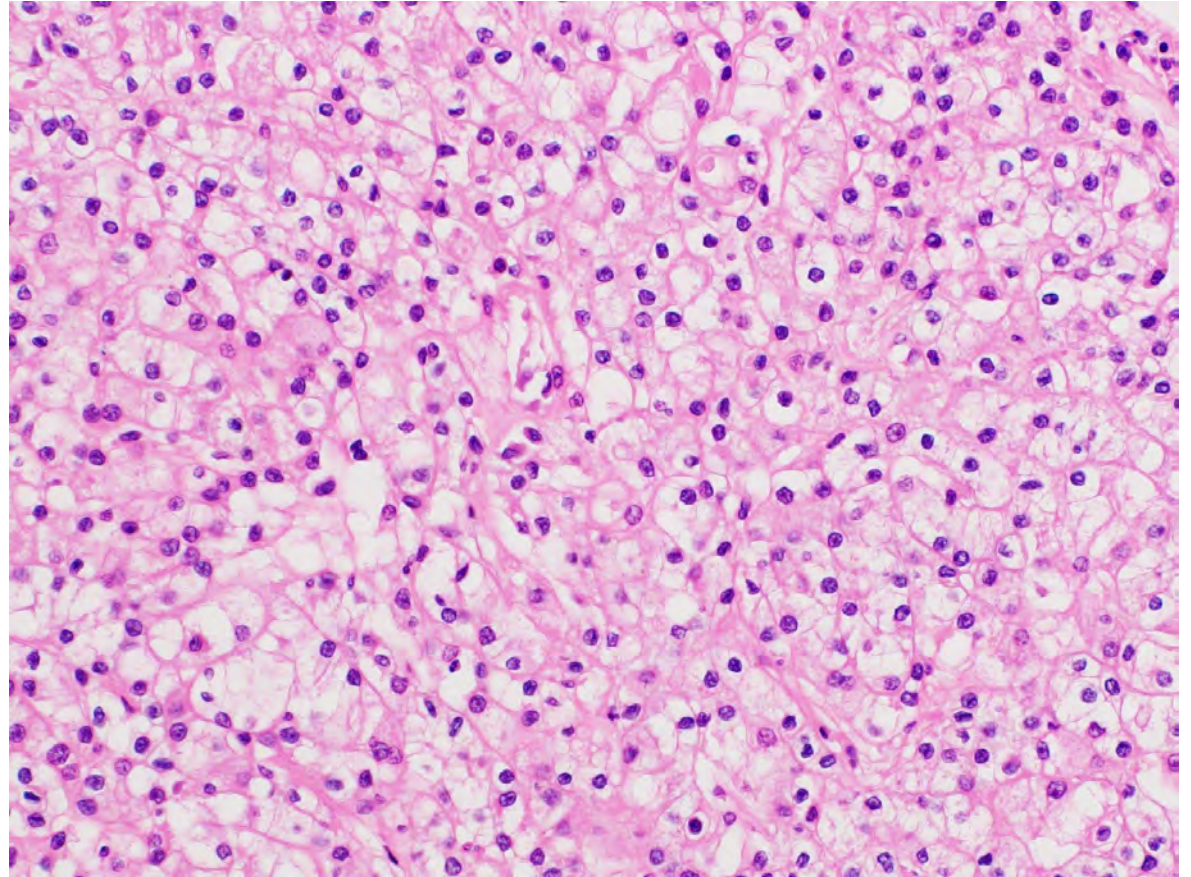
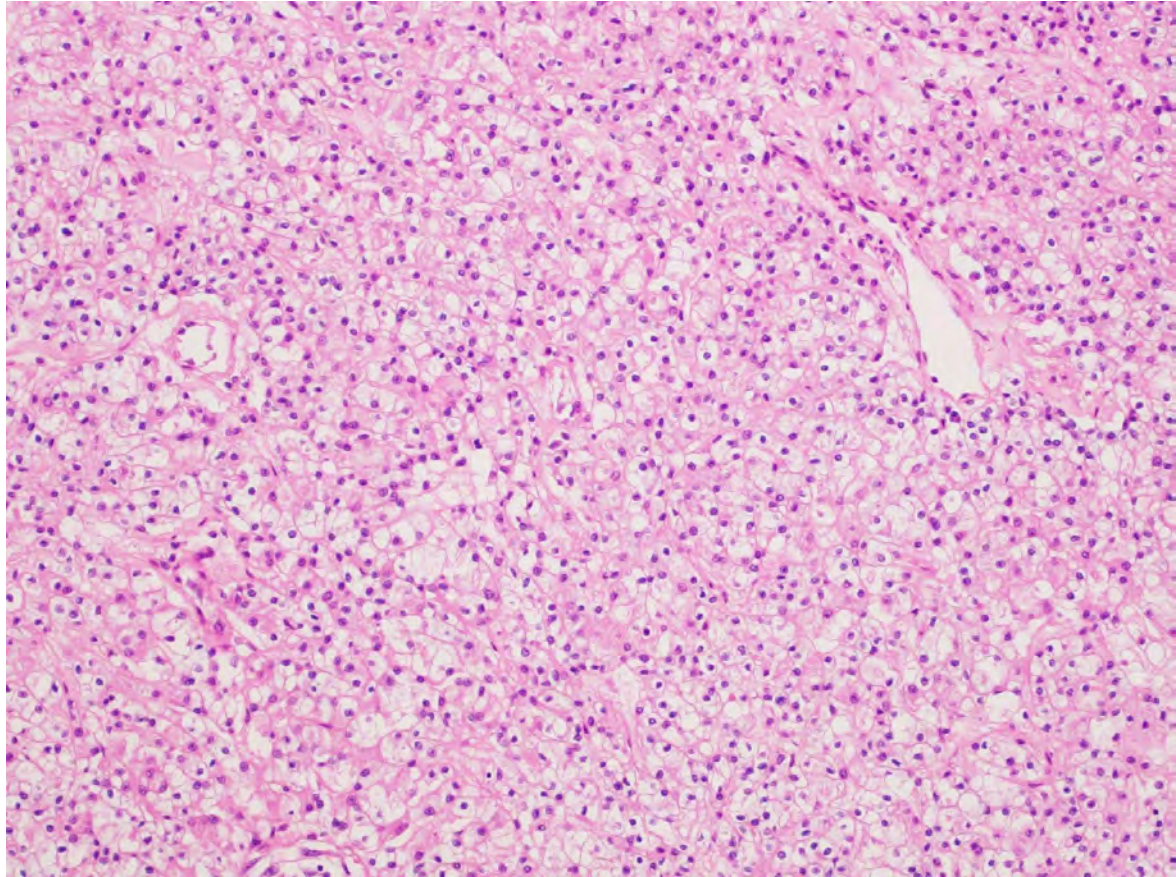
20XX +1/07/25

IO + TKI(ペンブロリズマブ、レンバチニブ) 投与してから、左腎摘



8.5*5*4cm

左腎腫瘍_病理組織結果

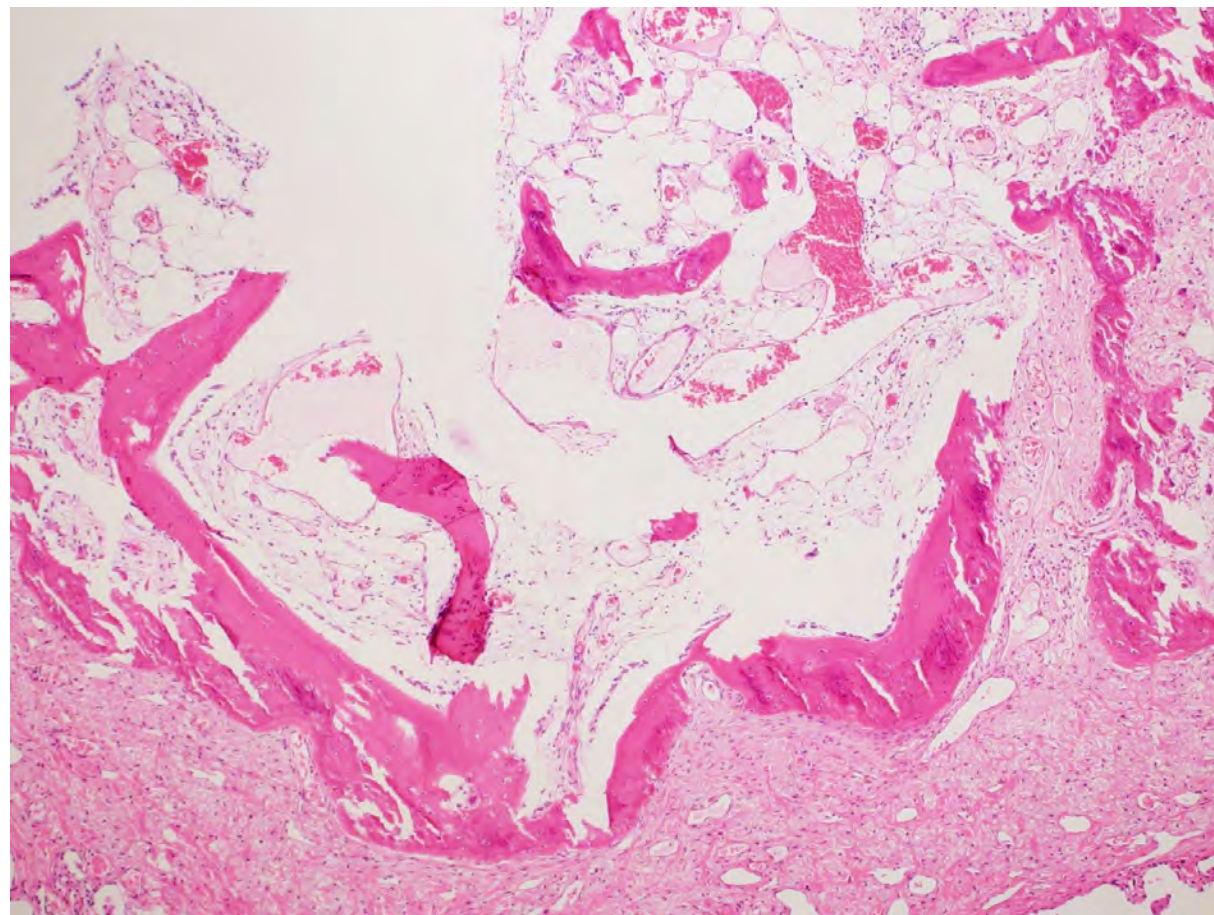
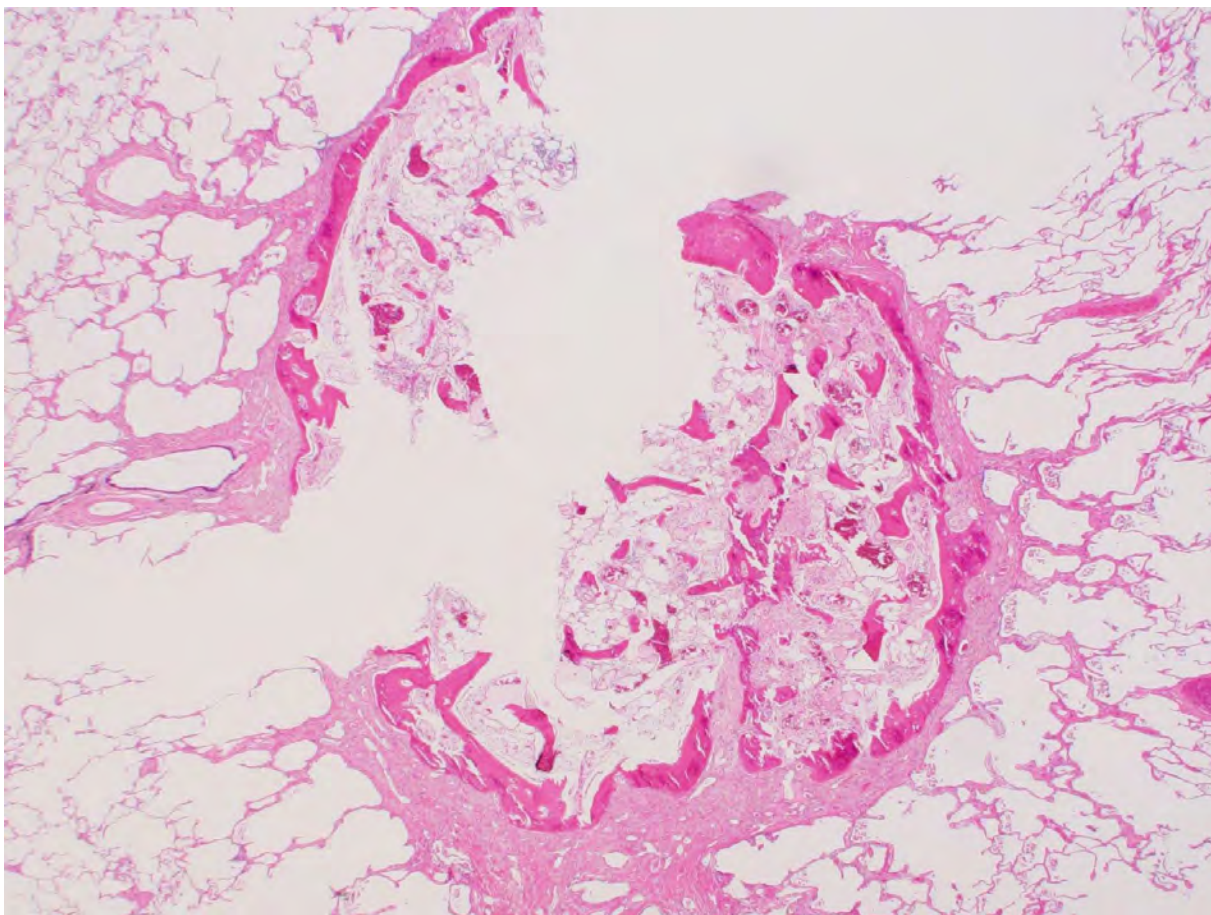


20XX +1/09/12
左肺上葉切除

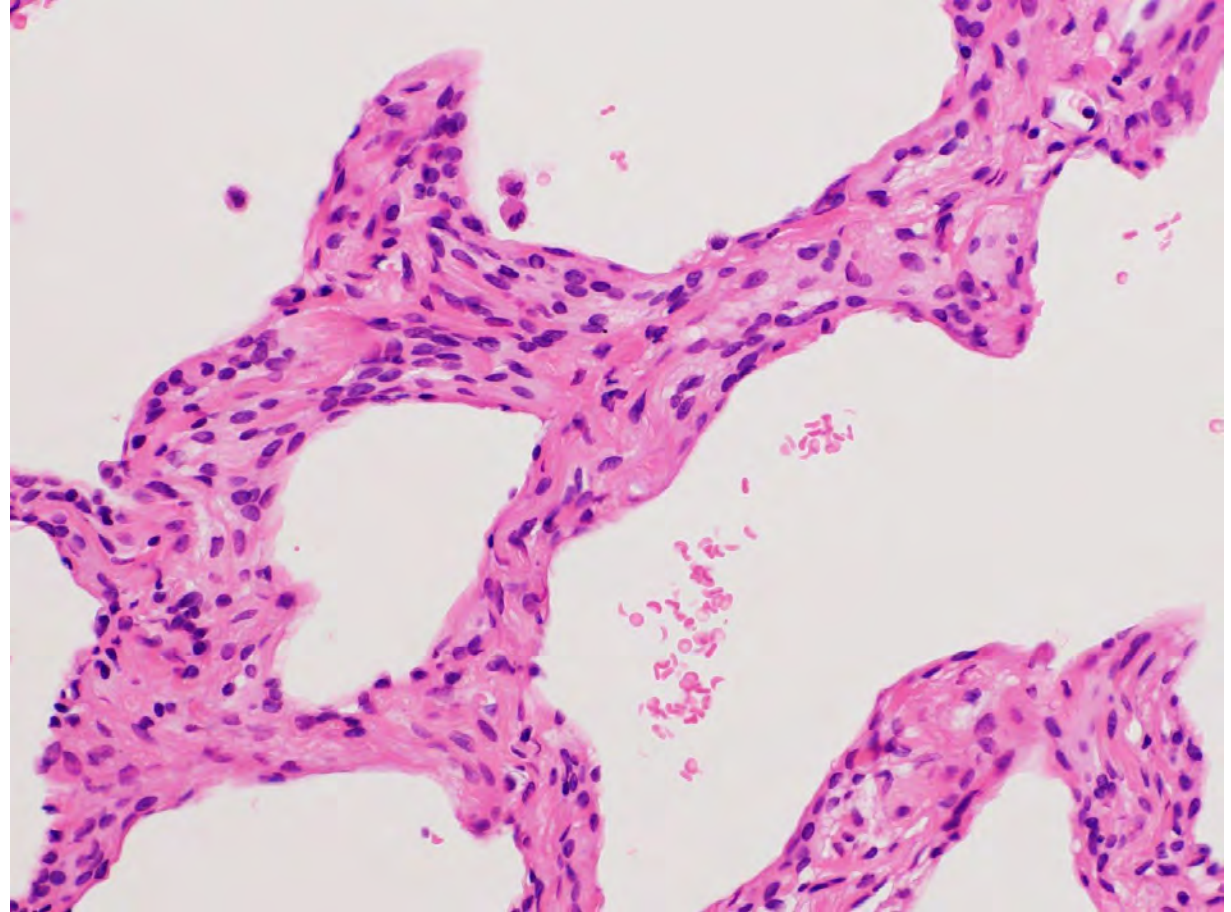
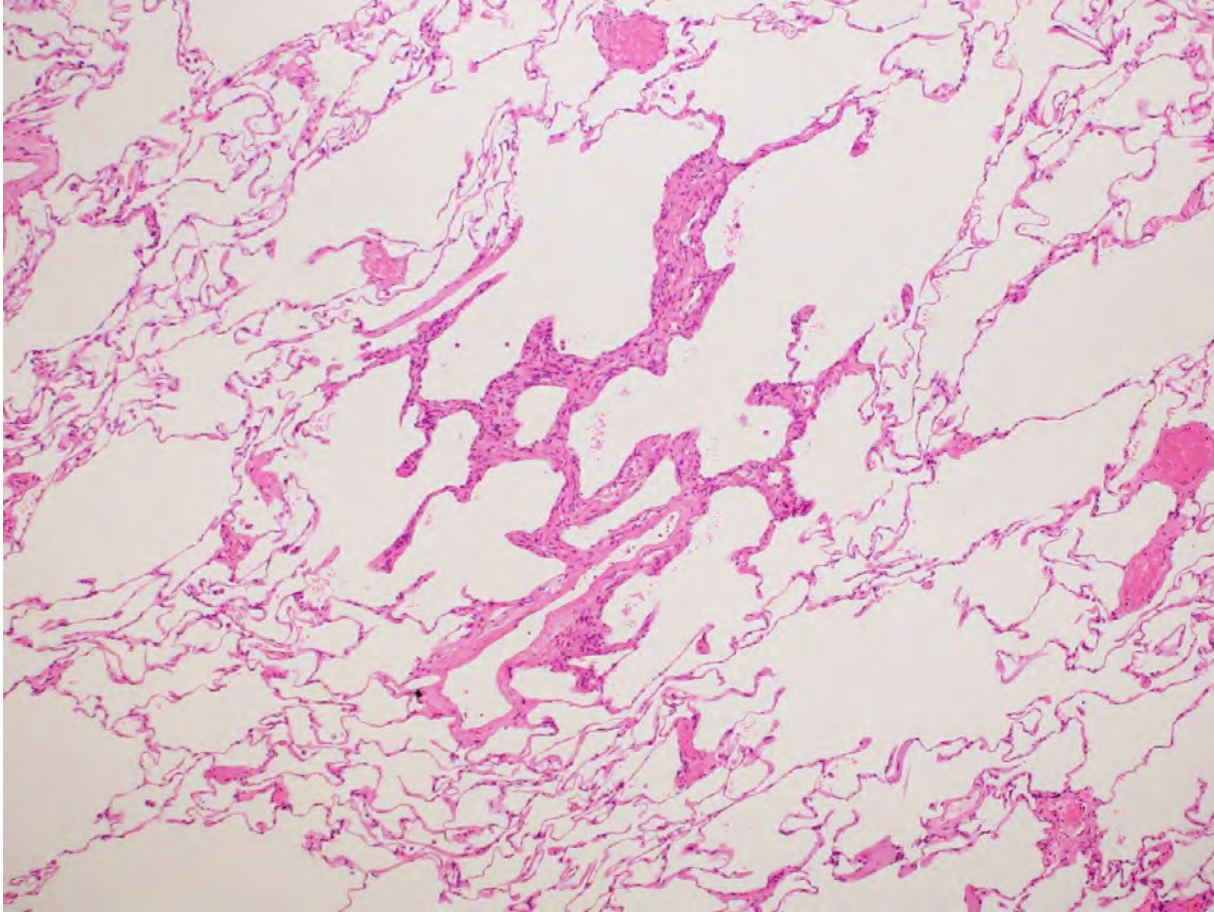




左肺上葉_病理組織結果



骨化・骨髄化がみられる良性病変

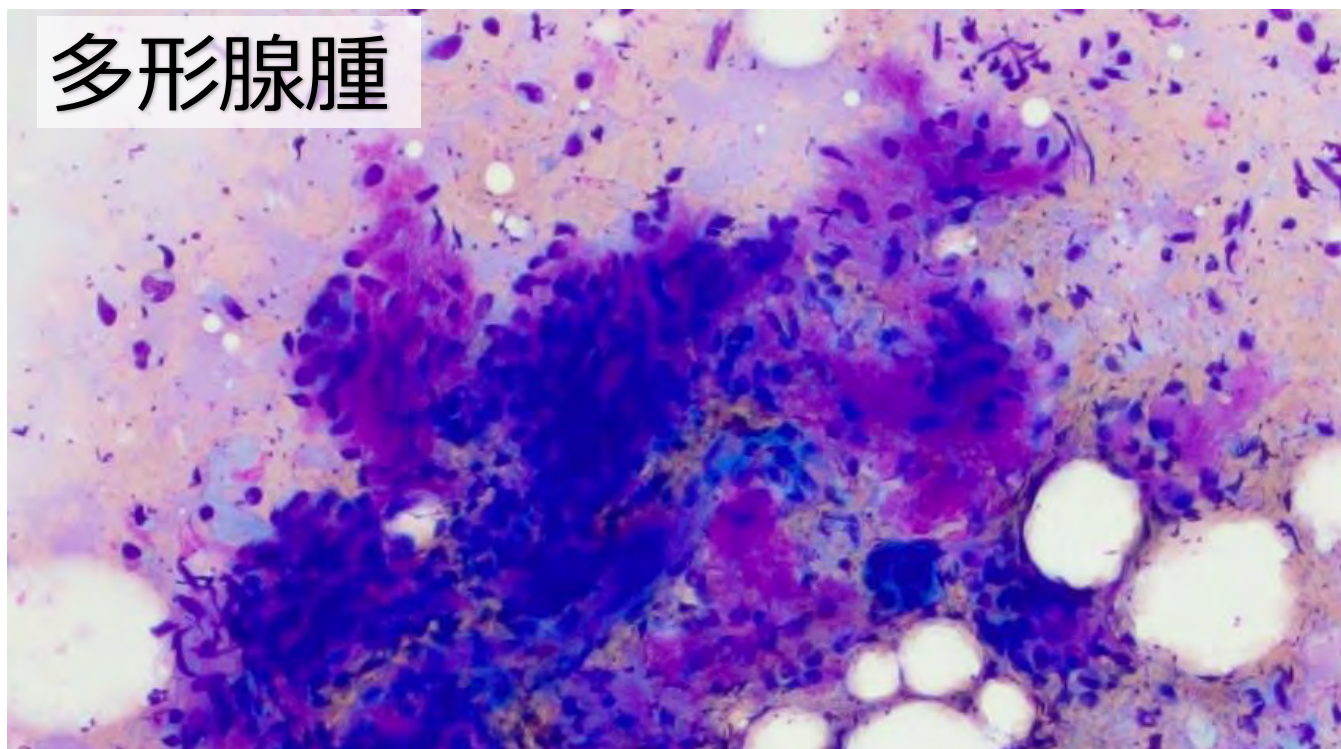


背景には髄膜腫様変化が多数みられる

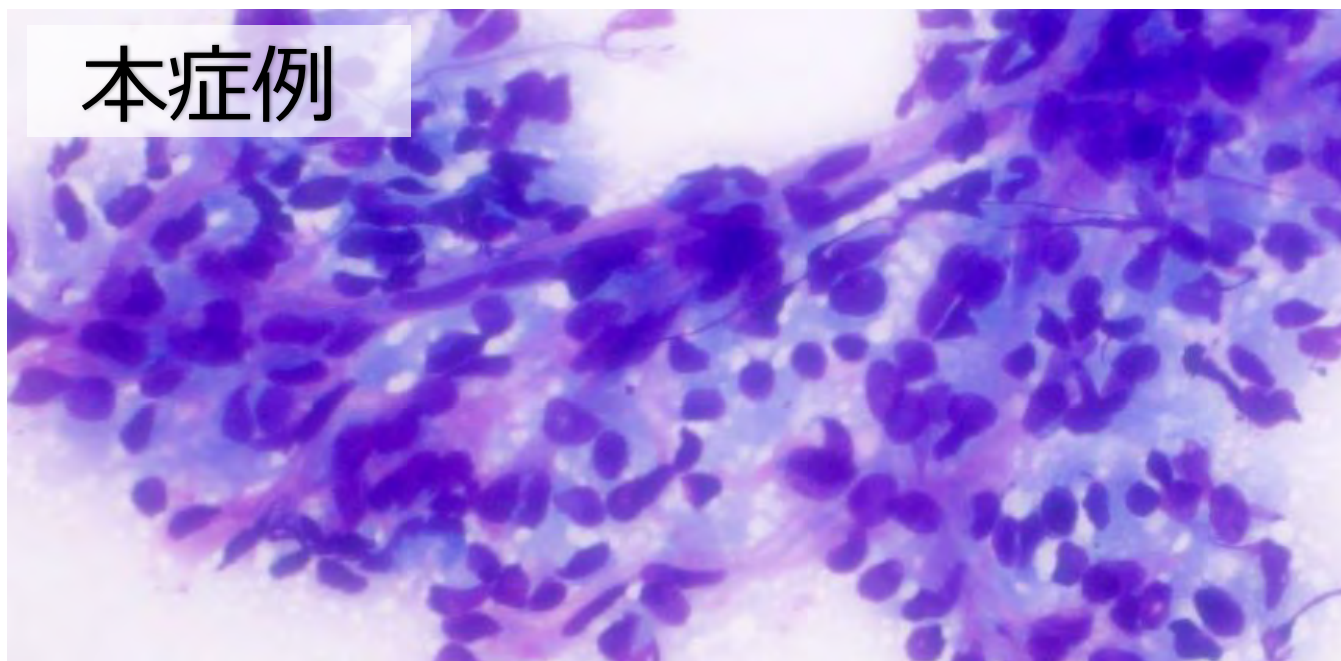
サマリ

- 20XX/09/04 超音波検査・左耳下腺穿刺吸引細胞診 多形腺腫 susp
- 20XX/10/04 MR検査（頭頸部） 耳下腺腫瘍（多形腺腫 susp）
- 20XX/10/27 左耳下腺腫瘍摘出術 腎細胞癌の転移
- 20XX/12/11 胸腹部CT 腎腫瘍と肺結節(転移の可能性)
- 20XX/12/15 骨シンチグラフィ 骨転移なし
- 20XX +1/01/16 ペンブロリズマブ、レンバチニブ治療開始
- 20XX +1/07/25 左腎摘出術 Clear cell renal cell carcinoma
- 20XX +1/09/12 左肺上葉切除術 良性病変
- 20XX +2/06/20 明らかな再発や転移なし

多形腺腫



本症例



作成者の許可なく改変・転載を禁じます